

D-1 本当に使える見積もり技術

9/1 10:00 <見積もりプロセスをマネジメントする>

株式会社日立製作所 情報通信グループ プロジェクトマネジメント本部
センタ長 初田 賢司

【セミナーの狙い】 ITプロジェクトの成否は「どう見積もるか」に大きく左右される。この段階でプロジェクトの大枠が決まるからだ。見積もりの前提条件が曖昧で、ベースラインが明確になっていないとプロジェクトをコントロールすることは難しくなる。ところが肝心の見積もり技術はまだ未成熟で、勘や経験に頼るところが大きい。本セミナーではプロジェクトマネジメントやエンジニアリングの観点から見積もりをとらえ、曖昧さを排除し、見積もりの合理性、論理性を高めるためにはどのようにアプローチすればよいかを解説する。

【セミナーコンテンツ】 ①ITプロジェクトの見積もりはなぜ重要か ②モノ作りの計画とマネジメントの計画 ③見積もりプロセスの基本的な流れ ④見積もりの準備 ⑤規模見積もりとファンクションポイント法 ⑥工数見積もりの技法とポイント ⑦コスト見積もりと価格設定 ⑧見積もり精度を向上させるには。

【受講をお奨めする方】 ITプロジェクトに携わる ①プロジェクトマネジャー ②見積もりを実施するエンジニア ③PMOのメンバー

【講師略歴】 1980年、日立製作所入社。製造業のシステムエンジニアを経て、92年からソフトウェア生産技術の開発に従事。2001年からはPMOに所属し、プロジェクトマネジメント分野の制度化、人材育成、エンジニアリング化に取り組み、施策立案から組織への定着化までを担当。日本ファンクションポイントユーザ会副会長、プロジェクトマネジメント学会理事を務める。日経ITプロフェッショナル誌に2005.5月号から2006.3月号まで「本当に使える見積もり技術」を連載。

D-2 失敗しない外注管理

9/1 14:00 <いかに協力会社のコミットメントを強化するか>

株式会社PMコンセプト
代表取締役社長 長尾 清一

【セミナーの狙い】 負荷の増大、技術力の不足、或いはコスト圧縮要求等により外注化がますます加速している。システム構築では、今や協力会社抜きでは業務を遂行できない。外注比率が累増する一方、「品質が基準以下」、「報告上の「順調」が結局は納期遅延」、「プロ集団に任せつつも逆に教える羽目に」等の問題に直面し、期待する外注化メリットを享受できない場合も多い。外注管理を単に「RFPの作成と外注選定」の狭い範囲で捉えている場合や自社要員に対する管理と同じ感性で行う場合、プロジェクトは確実に失敗する。本セミナーでは、戦略的な内製対外注分析、成果を出せる協力会社の見極め、リスクを分散させる外注契約、体系的な外注コントロールといった全局面でのポイントと問題を克服する具体的な管理手法を説く。

【セミナーコンテンツ】 ①外注化戦略とプロセス ②RFP作成と情報収集 ③外注契約によるリスク分散 ④外注コントロール ⑤評価と分析

【受講をお奨めする方】 プロジェクトマネジャー、サブリーダー、調達メンバー

【講師略歴】 UCバークレー校ビジネススクール大学院卒、MBA取得。滞米15年間で大規模プロジェクトを指揮、監督する。多国籍・多分野のチームを指揮してきた交渉力、債務不履行に関する知識を基に問題プロジェクトの処理を経験する。1993年よりPM教育専門の米国企業のアジア・パシフィック地区総責任者として、世界7ヶ国でPMトレーニング、コンサルティングを実施する。1993年にPMP資格を取得。1997年、株式会社PMコンセプト設立。著書に「先制型プロジェクト・マネジメント」(ダイヤモンド社)。

E-1 必修!PS流誉め方叱り方

9/1 10:00 <メンバーの心に響くリーダーシップとは>

IT-SIG PS-WG 松尾谷 徹(デバッグ工学研究所、法政大学講師)
松田 浩一(富士通)、森本 千佳子(TIS) **SIG** ワークショップ

【セミナーの狙い】 プロジェクトの生産性向上は行詰っています。ツールや技術、管理の導入など、様々なチャレンジをしてきましたが、残念なことに、思ったほどプロジェクトの生産性は向上していません。何故でしょう? 最終的に仕事を行うのは人であり、チームです。チームのモチベーション(PS=Partner Satisfaction)が向上しないと、どんな技術も、管理も活かされないのです。チームには、本来、お互いのやる気を高めあうソーシャルサポート機能があります。このセッションでは、チームのやる気を引き出すリーダーシップを学び、ソーシャルサポート機能を引き出し、自律するチーム作りを学びます。

【セミナーコンテンツ】 ①PM理論からみた人を動かすリーダーシップ行動 ②メンバーのやる気を引き出す褒め方、叱り方 ③ソーシャルサポートを発揮するチームとは

【受講をお奨めする方】 ①チームリーダー、プロジェクトマネジャー ②初めて部下を持つ方 ③部下とのコミュニケーションで困っている方 ④メンバー間の調整やチーム運営に困っている方

【講師略歴】 松尾谷徹: 1972年NEC入社。大型システム開発で数々の問題プロジェクトの建て直しに貢献、その経験から社内にモダンプロジェクトマネジメントアカデミーを設立し、ITプロジェクト成功のための人材育成に尽力。現在、デバッグ工学研究所を営み、PS研究会を主催。博士(システムズ・マネジメント 筑波大) 松田浩一: 富士通株式会社、大型ITプロジェクトのマネジャーをしながら社内でPS向上活動を推進 森本千佳子: TIS株式会社、PMP®、MBA、産業カウンセラー

E-2 プロマネ成功学

9/1 14:00 <プロジェクト危機解決から学ぶプロジェクトマネジメントの成功要因と今後の課題>

株式会社クロスリンク・コンサルティング
代表取締役社長 拜原 正人

【セミナーの狙い】 10年間でソフト開発プロジェクトの成功率は倍増したが、未だ30%台に過ぎない。近年の企業経営/ビジネスの変革に伴うプロジェクトの本格導入、プロジェクト環境の複雑化・多様化、プロジェクトマネジャー絶対数の不足などから、今後の成功率の動向は予断を許さない。この危機感の下で、100を越えるプロジェクトに関わり、その半数を占める危機プロジェクトを再建したPMノウハウと、近年のPMの実態から、PMの本質とその変化を解明、今後のプロジェクトの成功要因を探る。

【セミナーコンテンツ】 ①危機プロジェクト分析によるPM課題の顕在化 ②PM課題の分析と本質の追求(ex.プロジェクトの本質、マネジメントの本質、現状PMに欠けているもの等) ③プロジェクト成功要因とPMのあるべき姿 ④今後、我々が成すべきPM改革

【受講をお奨めする方】 ①企業/組織変革の責任者で、PMを変革のための重要なツールと考えておられる方 ②オーナー、コントラクター(SIer)などのPM統括責任者、プロジェクトマネジャーでPMに熱い思い、あるいは不安を持っておられる方

【講師略歴】 1970年日本電信電話公社入社。電気通信研究所でデータ通信用メインフレームDIPSプロジェクトの開発に従事。100を越えるシステム開発プロジェクトのマネジメントに携る。97年、NTTソフトウェア取締役に就任、NTTグループ企業外の顧客を担当。2003年、危機プロジェクトの再建を請負うクロスリンク・コンサルティングを設立、代表取締役に就任。危機再建ノウハウを活かしたプロジェクト危機防止のリスクマネジメントを確立、展開中。情報処理学会、PM学会、IAP2M学会、PMAJ会員